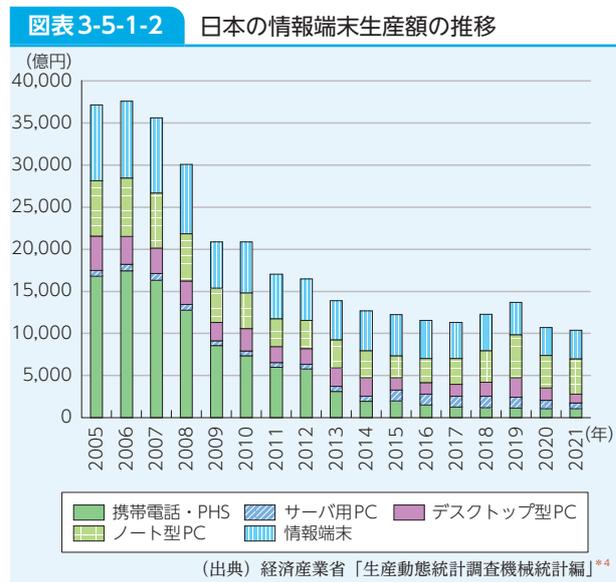
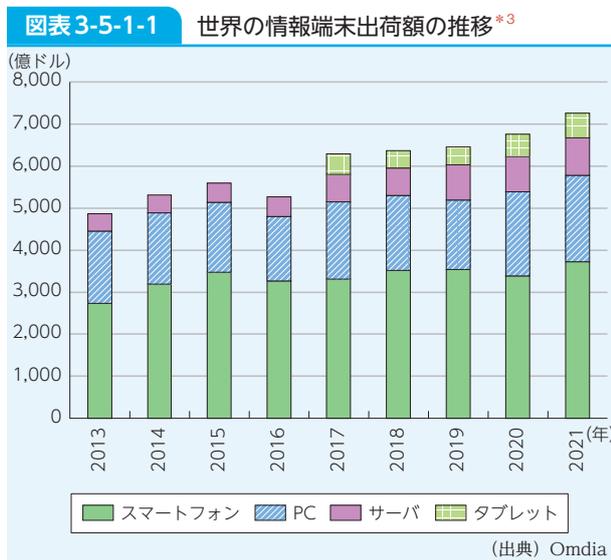


第5節 国内外における機器・端末関連の動向

1 情報端末市場の動向

世界の情報端末の出荷額は、2016年以降増加傾向にあり、2021年には79兆6,625億円（前年比10.4%増）となった（図表3-5-1-1）。内訳をみると、スマートフォンとPCが中心となっている。

日本の情報端末の生産額は、2017年まで減少傾向であったが、2018年以降増加に転じた後2020年から再び減少し、2021年には1兆370億円（前年比3.2%減）となった（図表3-5-1-2）。内訳をみると、携帯電話・PHS^{*1}が2010年代中盤までは大きかったが、その後縮小し、現在はデスクトップ型PC、ノート型PC、情報端末^{*2}が中心となっている。



2 ネットワーク機器市場の動向

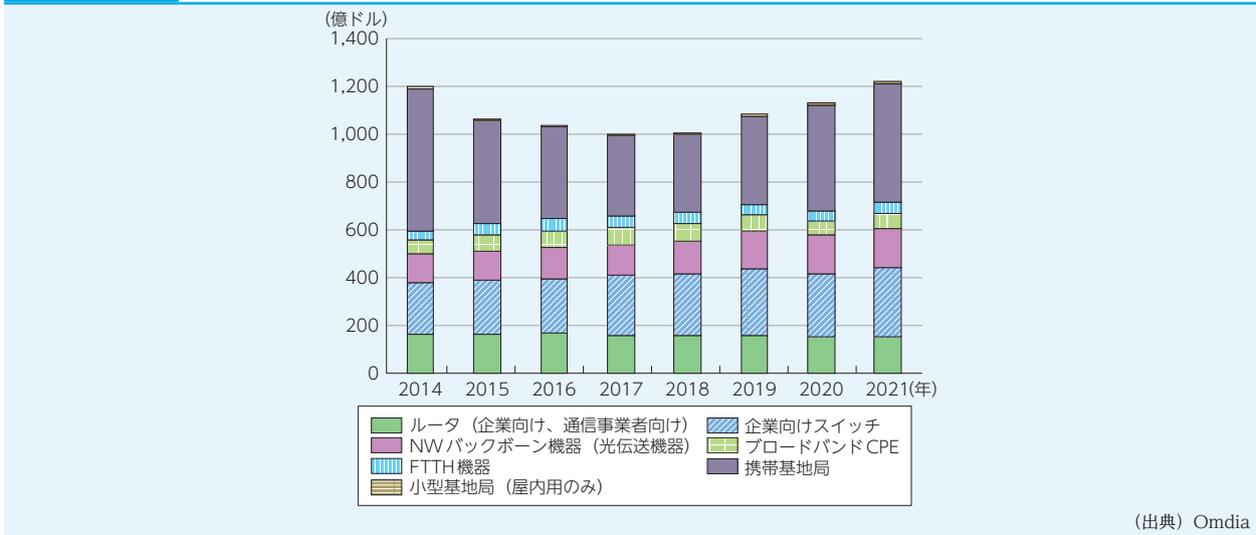
世界のネットワーク機器の出荷額は、2017年以降増加傾向にあり、2021年は13兆4,520億円（前年比10.9%増）となった（図表3-5-2-1）。内訳をみると、携帯基地局と企業向けスイッチが中心となっている。

日本のネットワーク機器の生産額は、2000年代前半から減少傾向で推移していたが、2018年以降は緩やかに増加し、2021年に再び減少して7,743億円（前年比0.5%減）となった（図表3-5-2-2）。内訳をみると、固定電話から携帯電話・IP電話への移行に伴って電話応用装置^{*5}、交換

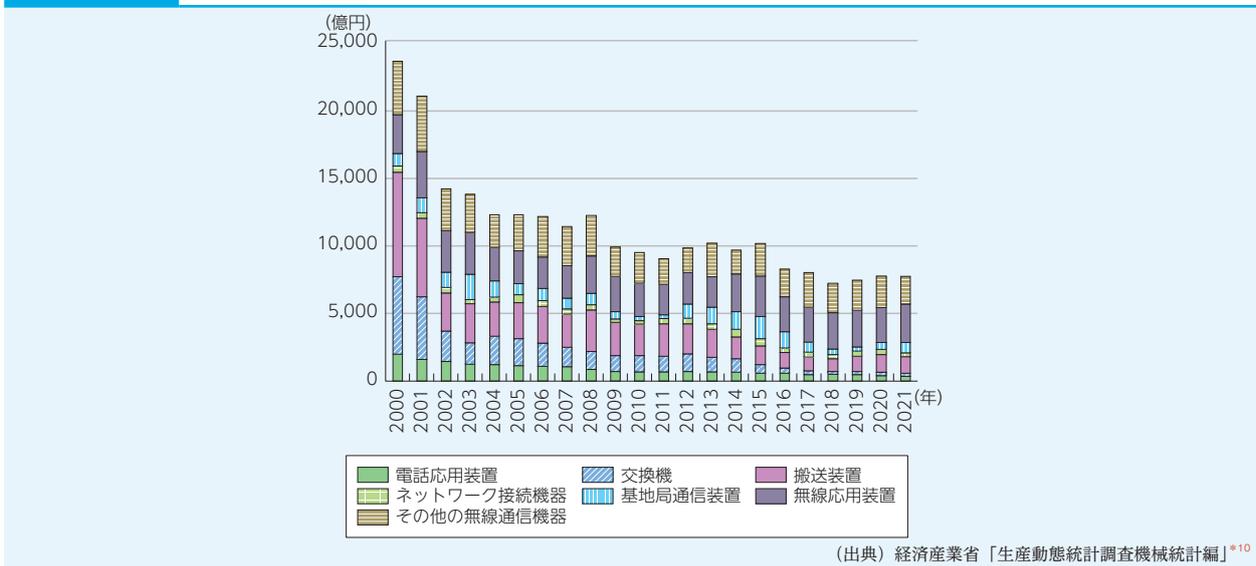
^{*1} 2019年度以降は、携帯電話・PHSの生産額は非公表となったため、無線通信機器（衛星通信装置を含む）から放送装置、固定通信装置（衛星・地上系）、その他の陸上移動通信装置、海上・航空移動通信装置、基地局通信装置、その他の無線通信装置、無線応用装置を引いた値を使用している。
^{*2} 外部記憶装置、プリンタ、モニターなど。情報キオスク端末装置は非公表の年があるため、それを除いた値を使用。
^{*3} タブレットは2017年から集計。
^{*4} <https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/seidou/index.html>
^{*5} ボタン電話装置、インターホン。

機などが減少しており、現在は無線応用装置*6とその他の無線通信機器*7の規模が大きい。また、基地局通信装置は増減の波が大きく、4G向けの投資が一巡した2016年以降は低迷が続いていたが、2020年から増加に転じた。IP通信に使用されるネットワーク接続機器*8は2019年から増加に転じたが、2021年は減少した。搬送装置*9は2019年から主にデジタル伝送装置が寄与して増加している。

図表 3-5-2-1 世界のネットワーク機器出荷額の推移



図表 3-5-2-2 日本のネットワーク機器生産額の推移



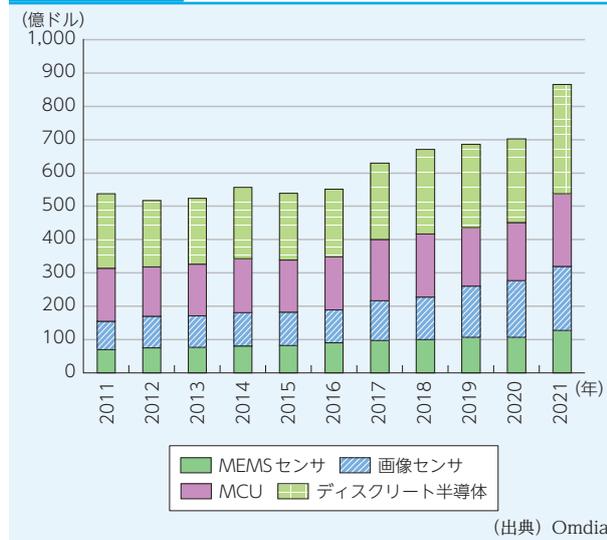
*6 船舶用・航空用レーダー、無線位置測定装置、テレメータ・テレコントロールなど。
 *7 衛星系・地上系固定通信装置、船舶用・航空機用通信装置、トランシーバなど。
 *8 ルータ、ハブ、ゲートウェイなど。
 *9 デジタル伝送装置、電力線搬送装置、CATV搬送装置、光伝送装置など。
 *10 <https://www.meti.go.jp/statistics/tyo/seidou/index.html>

3 半導体^{*11} 市場の動向

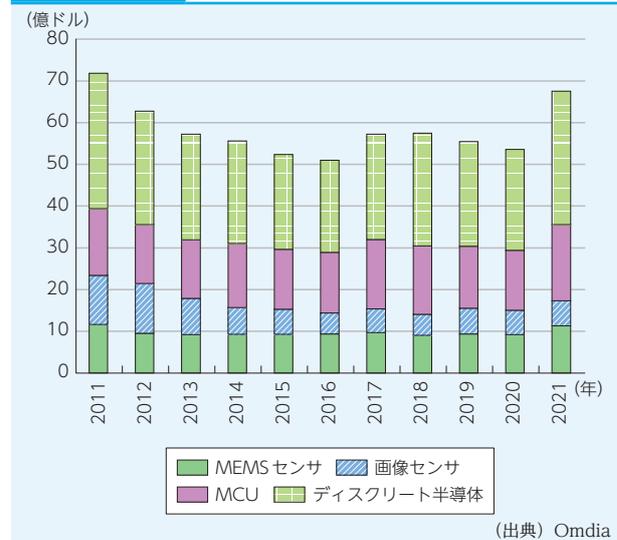
世界の半導体の出荷額は、2015年以降増加傾向にあり、2021年には9兆4,999億円（前年比26.7%増）となった（図表3-5-3-1）。内訳をみると、ディスクリート半導体が最も多く、近年大きく成長しているのは画像センサとなっている。

日本の半導体の出荷額は、2018年から減少していたものの、2021年は7,412億円（前年比29.6%増）と増加に転じた（図表3-5-3-2）。内訳をみると、世界市場と同様にディスクリート半導体が最も多く、全体の半数弱を占めている。

図表3-5-3-1 世界の半導体出荷額の推移



図表3-5-3-2 日本の半導体出荷額の推移



4 ICT機器の輸入額・輸出額の推移

ICT機器^{*12}の輸出額は、中国が急激に増加している。米国と日本は、2000年代初頭に減少した後で増加に転じ、2009年に再び減少するまでは同じような推移だったが、2010年以降米国が高い水準を保った一方、日本は減少トレンドとなった。ICT機器の輸入額は、中国、米国の増加が顕著である。日本は増加しているが、増加幅は小さく、中国、米国との差が開いている。

2020年には、日本のICT機器の輸出額は6兆871億円（前年比1.1%減）、輸入額は9兆5,804億円（前年比0.5%減）で、3兆4,932億円の輸入超過（前年比0.5%増）となっている。また、米国では2020年には22兆3,201億円の輸入超過（前年比8.8%増）であったが、中国では2020年には19兆8,044億円の輸出超過（前年比7.8%減）となっている。



【関連データ】
 各国のICT機器の輸出額・輸入額の推移
 出典：UNCTAD [UNCTAD STAT]
 URL：https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r04/html/nf305000.html（データ集）

*11 本項では、デジタルトランスフォーメーション（DX）で導入が進むIoTやAIを実装した電子機器においてキーデバイスとして位置付けられる、画像センサ、MCU、MEMSセンサ、及び不可欠な電源に使われるディスクリート半導体を指す。
 *12 電子計算機、通信機、消費者向けの電気機器、電子部品など。

5 世界市場及び日本市場の事業者別シェア

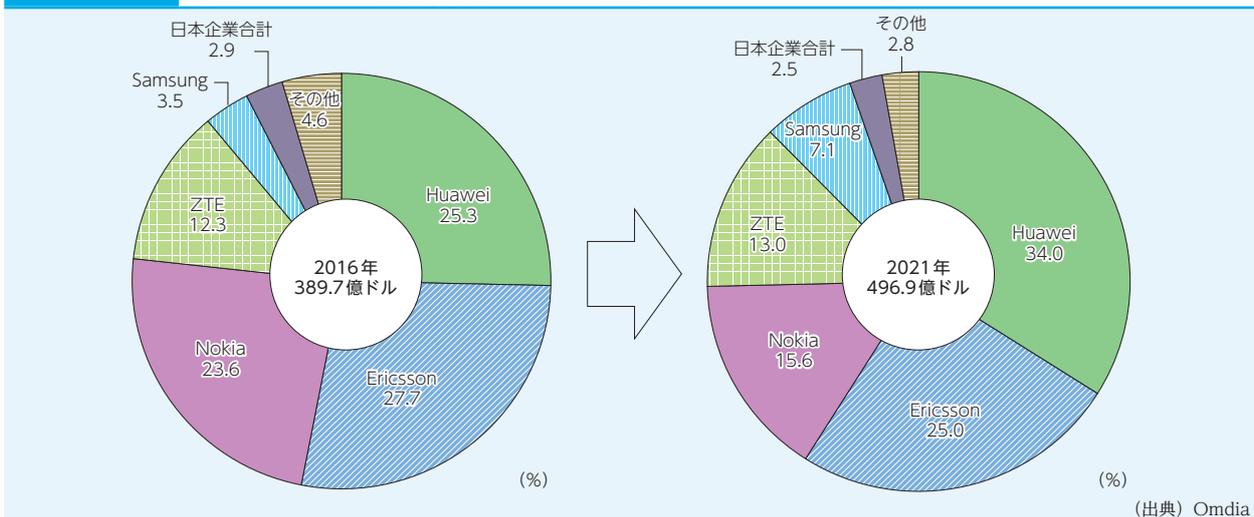
1 世界市場

世界市場について、情報端末の主要製品であるスマートフォンの販売台数ベースのシェアをみると、2021年は、首位がSamsung20.3%、2位がApple17.5%、3位がXiaomi14.2%となっている。

ネットワーク機器では、マクロセル基地局の出荷金額ベースのシェアは、2021年は、首位がHuawei34.0%、2位がEricsson25.0%、3位がNokia15.6%となっている（図表3-5-5-1）。また、企業向けルータの出荷金額ベースのシェアは、2021年は、首位がCisco64.6%、2位がH3C8.3%、3位がHuawei6.3%となっている。

半導体の出荷金額ベースのシェアは、2021年は、首位がIntel13.0%、2位がSamsung Electronics12.8%、3位がSK Hynix6.3%となっている。

図表 3-5-5-1 世界のマクロセル基地局市場のシェアの変化



【関連データ】
 世界のスマートフォン・企業向けルータ・半導体市場のシェアの変化
 出典：Omdia
 URL：<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r04/html/nf305000.html>（データ集）

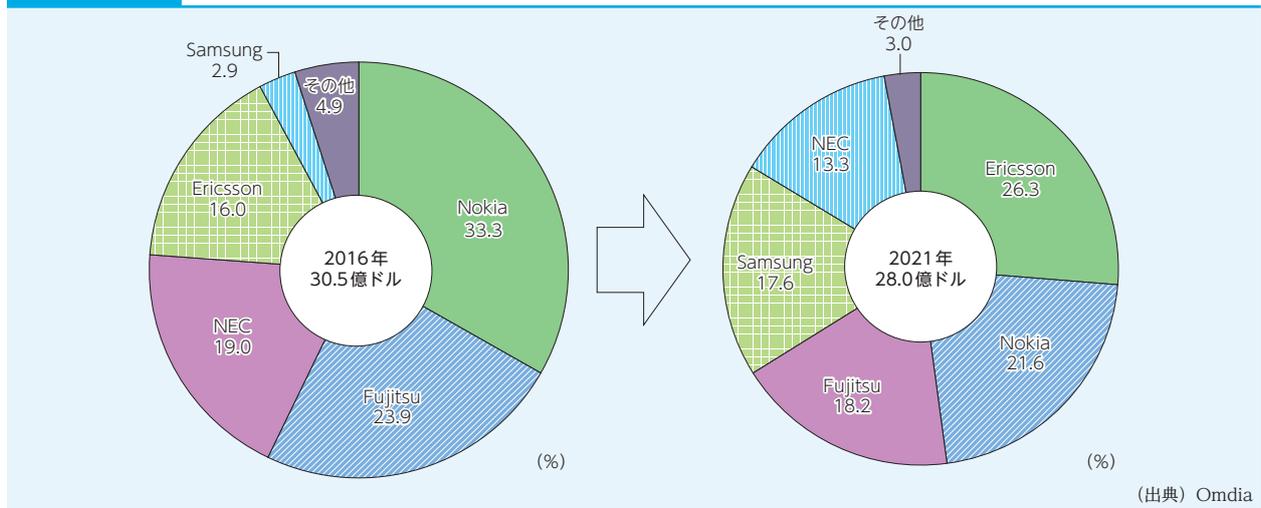
2 日本市場

日本市場をみると、スマートフォンの販売台数ベースのシェアは、2021年は、首位がApple67.4%、2位がSamsung9.4%、3位がSharp9.0%となっている。

ネットワーク機器では、マクロセル基地局の出荷金額ベースのシェアは、2021年は、首位がEricsson26.3%、2位がNokia21.6%、3位がFujitsu18.2%となっている（図表3-5-5-2）。企業向けルータの出荷金額ベースのシェアは、2021年は、首位がCisco28.8%、2位がYamaha28.1%、3位がNEC27.1%となっている。

半導体の出荷金額ベースのシェアは、2021年は、首位がIntel8.6%、2位がRenesas Electronics8.3%、3位がSamsung Electronics6.5%となっている。

図表 3-5-5-2 日本のマクロセル基地局市場のシェアの変化



【関連データ】

日本のスマートフォン・企業向けルータ・半導体市場のシェアの変化

出典：Omdia

URL：<https://www.soumu.go.jp/johotsusintokei/whitepaper/ja/r04/html/nf305000.html> (データ集)